

Q：将来的に化石燃料が枯渇し、また地球温暖化を防ぐ意味でも原子力発電は見直されてきたと思いますが？

A：原発は「二酸化炭素を出さない」と説明されますが、実は、本当に二酸化炭素を出さないのは「発電時」だけです。

原発の燃料であるウランは、主に海外のウラン鉱山から採掘されます。大量の石油を使って掘り出され、その際二酸化炭素が排出されます。周辺環境にも放射能を撒き散らし、採掘地区では汚染が重大な問題ともなっています。採掘されたウランは現地で精錬され、貨物船で石油を膨大に使って日本まで運ばれます。その後、また石油を使って日本の核燃料加工工場で原発に装荷出来るようペレット状に加工されます。完成したペレット燃料は原発現地まで各地の高速道路を一般車両と隣りあわせで通りながら危険な運搬をして運ばれます。比重が重いため、ガソリンを大量に使用します。

そして原発に装荷されます。原発から生まれた放射性廃棄物は、再処理工場または廃棄物処理場へ運ばれ、石油を再度大量に使って、加工再処理または何十万年という期間管理される予定になっています。原発が「二酸化炭素」を出さないというのはPRキャンペーン通り「発電時」のみで、採掘から管理まで「二酸化炭素」を出し続けるのです。

また、原発の温排水は海へ直接廃棄され、海を暖める温暖化の元凶ともなっています。

【二酸化炭素】排出の図挿入